

公表 事業所における自己評価総括表（児童発達支援）

○事業所名	こども発達サポート つむぎ			
○保護者評価実施期間	令和 7年 11月 1日 ~ 令和 7年 11月 30日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数)	2
○従事者評価実施期間	令和 7年 11月 1日 ~ 令和 7年 12月 5日			
○従事者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数)	10
○自己評価表作成日	令和 7年 12月 22日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	家庭の事情やレスパイトケア（一時的な休息）のニーズに柔軟に対応し、家族全体の生活安定を支えている点。	送迎時の対話や連絡ツールを活用し、保護者の体調や心情の変化をいち早く察知して、個々の事情に寄り添った柔軟な利用調整を行っている。	保護者が抱える育児の悩みを早期に解消できるよう、相談支援事業所や関係機関との連携をさらに密にし、包括的な支援体制を強化していく。
2	基準を上回る手厚い職員配置を維持し、安全管理とお子様一人ひとりに合わせたきめ細やかな支援が実践できている点。	日々のミーティングでケース検討を活発に行い、職員間で支援方針を統一している。また、経験豊富な職員が若手をフォローする体制を整えている。	外部研修で得た最新の知識や技術を共有する「所内研修」を行い、職員全体の療育スキルと専門性のさらなる底上げを図る。
3			

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者同士が交流できる場や、保護者向けの学習会・研修会の開催が十分に実施できていない点。	保護者の就労状況による多忙さやニーズの多様化に対し、一律の日程・内容での開催が難しく、企画が具体化しきれなかったこと。	集まる形式にこだわらず、配信や「お便り」でのコラム充実、自由参加型の座談会など、保護者が気軽に参加・情報を得られる多様な形態を試行する。
2	地域行事への参加や近隣住民との交流機会が少なく、事業所の活動や障害児支援への理解促進が地域内で十分に進んでいない点。	日々の療育業務と安全確保を最優先としてきたため、地域連携に向けた企画立案や対外的な活動に割く人員・時間が不足していた。	まずは挨拶や近隣清掃など身近な活動から地域との接点を持ち、地域の行事情報を早期に収集し、無理なく参加できるイベントへの参加を進める。
3			